

同友 やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

08
2013
AUGUST

山形県中小企業家同友会
月刊 同友
やまがた



2013北海道・東北ブロック支部長・地区会長交流会

中同協 第45回定時総会

情勢を切り開く強じんな企業づくりを地域に広げよう

中小企業憲章推進月間

中小企業振興条例で「ものづくり・ひとづくり・まちづくり」

メンタルヘルス学習会

企業のメンタルヘルスを考え合う

中小企業振興条例元年

魅力を集い、
共に歩もう!

情勢を切り開く強じんな 企業づくりを地域に広げよう

7/11～12、中同協第45回定時総会が、真夏の太陽が照りつける、文字通り『南国宮崎』で開催され、全国から951名が参加しました。2日間にわたり、企業づくり、地域づくり、同友会づくりの先進的な実践事例に学びあいました。



「第16分科会 地域資源を活かし「新ビジネス」を創造する～強みを再発見とそれを活かす連携～」に参加して。

報告：(有)山形E旅 代表取締役 金田史生

初日、私自ら希望し参加した「第16分科会」。産学官連携プロジェクトによる「ビームタウン式太陽集光装置」および「集光型太陽光発電システム」の見学分科会でした。

本定時総会議案書にもありますが、本年度の課題と活動方針は「企業づくり・地域づくり・同友会づくりを一体として地域の再生に取り組もう」。その中の、中小企業をめぐる情勢におけるエネルギー問題や、これからの企業づくりにおいても必須条件となる環境経営という側面からも、非常に興味深く関心の高い太陽光発電の見学分科会です。

会場は宮崎大学。参加人数は定員いっぱいの45名。真夏の太陽がギンギンと照りつける中、(太陽光発電の見学だから)当たり前ですが屋外へ。全身汗だくになりながら、宮崎大学の西岡准教授のアツい報告を聞かせていただきました。



「ビームタウン式太陽集光装置」(写真①)

「ビームタウン式太陽集光装置」(写真①)は、一見すると“孔雀が羽を広げたよう”な装置で、ヘリオスタットという凹面鏡により反射された太陽光を高さ16mのタワー中央部にある楕円鏡に集光するというもので、70 kWサーマルの熱を得ることが出来るそうです。ビームタウン式としては、国内最大級で世界でも最高レベルの集光度を誇るこの装置、実は地元中小企業も関わっています。



「集光型太陽光発電システム」(写真②)

「集光型太陽光発電システム」(写真②)は、中央が凹んだ形のアクリルレンズ(安価だそうです)の集合パネルで集光(500倍の光!)し、非常に小さな太陽電池(5 mm角くらい)に照射させて発電するもので、低コストながらも、集光型システムとしては国内最大出力の14 kW(1基あたり)を誇ります。ビームタウン同様、地元中小企業の技術が役立てられています。

双方とも、太陽追尾システムを有し、常に最適な角度で太陽光を受けられるようになっているのが特徴です。

これからの日本を、世界を考えると、やはり「原発のようなものに頼るのではなく、自然環境に優しい」先述のような発電システムが理想であり、推進していくことが大切であると改めて考えさせられた分科会でした。

最後に、やはり全国行事は“いい”です。参加しないほうが“もったいない”です。交流が深まれば連携も生まれますし…。山形同友会会員の皆さんも、大いに参加されることをオススメいたします。



2日目 大討論会

1. 学習会について

6月21日、山形テルサにおいて、講師に東京都墨田区産業観光部高野祐次部長を迎え「中小企業振興条例で地域をつくる！」というテーマで中小企業振興条例学習会を開催しました。参加者は同友会会員をはじめ国会議員秘書、県会議員、山形県職員、山形市、南陽市、飯豊町の職員、県企業振興公社、金融機関等から41名の参加人数となりました。



条例を学ぶ学習会は「中小企業憲章」が閣議決定された平成22年6月にちなみ、毎年6月を憲章を学ぶ月間として全国一斉に行われているものです。昨年の第1回目は中小企業庁の間宮課長を迎え、中小企業憲章が生まれた背景とその意義について講演をいただきましたが、今年は山形県中小企業振興条例が昨年12月に制定されたことを受け、実際に条例を活用し地域振興に貢献している東京墨田区の事例に学び、私達のこれからの活動のあるべき姿を見出す事を目的として学習会を開催しました。

高野部長の講演は、「墨田区は中小企業が90%を占める下町の工場地帯で職住と商店街が共存する地帯であったが、不況と工場移転が重なり中小企業が激減する状況の中、中小企業を振興し地域を振興しなければならないという危機感から区役所を挙げて地域の企業を守ろうと区役所幹部職員が地域内の全企業を訪問し実態調査することから始まり昭和49年行政主導で中小企業振興条例を日本で最初に作った。

その歴史から行政には中小企業振興推進がDNAとして残り、現在も行政と中小企業が一体となって地域の振興を行っている。スカイツリーが出来た事を機会に観光と商業と工業の振興を目的に従来の担当産業部署を「産業観光部」に改編して総合的な地域振興を図っている」という官民一体となった取組内容でした。特に行政の関わり方が非常に大きく地域振興に対する意気込みの強さが伝わりました。

2. 山形県中小企業振興条例について

昨年12月19日山形県議会において「山形県中小企業振興条例」議案が県会議員有志により上程され賛成多数で可決されました。

同友会としては政策委員会を中心に6年前から中小企業憲章と中小企業振興条例を一体として捉え、その実現に向けて中同協との連携と県及び山形市との産業政策担当部署との勉強会を重ねてきました。又中小企業振興条例を推進する為独自の条例パンフレットを作成し、会内はもとより行政金融機関に対し啓蒙活動を行ってきました。その活動実績が認められ条例策定において私たちの意見を述べてさせて頂き、結果この条例には同友会の意見が多く反映されています。中小企業振興条例制定がなった今、私たち企業者にとってはこれからが本当のスタートです。

山形県ではこの条例制定を受け2013年に「中小企業振興課」を設置し県事業として始動しました。条例ができ県の体制も少しずつ進みだした今、これからは我々が経営基盤であるこの地域の振興に経営を通してどのように関わり成果を出していくのが問われています。

3. 条例制定した先進地域の紹介

20012年12月全国では23道府県58市16区10町で条例が制定されています。

主な事例を紹介します。

・大阪府八尾市

八尾市では市内の産業を支える中小企業の振興はまちづくりを進める上で不可欠であり、そのためには市民、事業者、行政がそれぞれの立場と役割について理解し、協働することが重要だとして平成13年に制定した条例を昨年更に身近にした改正を行っています。特徴として条例を回覧板形式で全市民に告知しています。

・京都府与謝野町

与謝野町の中小企業振興基本条例は「事業者は地域を守る社会的使命がある」「この条例は中小企業のためのものではなく、町民の暮らしを支える条例である」という思いがこもったもので、事業者が地域への貢献に努力するという「商助」の考えが盛り込まれた京都府初の理念型条例です。ここにはまさしく中小企業が社会の担い手であることが明記され私たちの町を豊かにするという宣言がなされています。

4. 中小企業振興条例が目指す地域活性化とは

京都同友会の中村副代表が「企業の社会的責任」と題して、「地域の特徴を良く理解すると自社に何ができるか見えてくる。これが企業の社会的役割だ」と言っています(中小企業家しんぶん25年1月15日)。

この社会的役割を経営理念に取り入れ、理念を地域に向けて発信し、地域から賛同されるとその企業は地域におけるなくてはならない会社になります。

これが中小企業憲章と振興条例の理念を活かした経営といえるのではないのでしょうか。条例は地域に住む皆さんと中小企業者と行政が、それぞれの役割を果たしていく事により地域循環型経済が構築され持続可能な地域を生み出すための大きな指標となるものです。

中小企業の発展こそが地域を輝かせるものであり日本を元気にしていく原動力です。

今こそ中小企業から日本を変えましょう。

(政策委員長 齋藤志直)





平成25年7月10日 18:00～20:30、ビッグウイング研修室において「メンタルヘルス学習会」(主催:社員共育委員会)を行いました。参加者は40名でした。

最近、「うつ」に関する経営者の悩みが増えていると聞きます。

また、「抑うつ」「うつ」「新しいタイプのうつ」と複雑化してきており、また組織に与える影響も大きくなってきていると聞きます。我々も企業として経営者として(管理者として)どう対応して行けば良いのかを学ぶ必要があると思ひ学習会を企画しました。

講師は厚生労働省・独立行政法人労働者健康福祉機構 メンタルヘルス対策支援センターの遠藤促進員をお招きしました。遠藤促進員は東北精機工業株式会社の人事・総務に28年勤務され、その後株式会社長栄精密の経営管理・ISO管理責任者として12年勤務された山形の中小企業を知り尽くした方です。

これまで、県内270社を超える企業を訪問し、支援にあたり70回を超える企業内研修を行っていらっしゃいます。

メンタルヘルス対策支援センターの提供するサービスは全て無料であり、この学習会後に各企業での企業内研修やメンタルヘルスに対する積極的な取り組みが行われることを期待しながら学習会を始めました。

はじめに、「ストレス」と「自殺」についてデータを見ながらメンタルヘルスの現状把握をしました。

ストレスを感じる社員は年々増加傾向にあり、ストレスが引き起こす健康障害(眠れない、食欲が無いなども含む)も増加傾向にある事がわかりました。

またメンタルヘルス理由の1ヵ月以上の休職者・退職者の業種別状況では通信業界が最も高く、全業種平均の5倍となっていることに驚きました。

自殺に関しては平成15年をピークに減少傾向にはあるがそれでも3万人を少し切る程度の自殺者がおり、またうち労働者の比率は増加傾向にありました。

さらに、その原因・動機を調べると健康問題、経済問題、家庭問題、勤務問題、男女問題、学校問題の順であったが、一番の原因である健康問題や経済問題は減少傾向でした。逆に家庭問題、勤務問題は増加傾向にあることが特徴的でした。

現状把握の後、メンタルヘルスを考えるに当たっての基本的な考え方について学びました。

- 1、メンタル不調を発生させない1次予防が最も重要。
- 2、早期に発見し対処する2次予防。

3、不調が発生した場合の対応を確実にする3次予防
メンタルヘルスの基本的な考え方は何よりも「予防」にありました。

会社経営に置き換えると

・従業員の幸せを考えた経営

・人を活かす人事管理

・健康で明るい職場作り(心と体の健康づくり)

を考え、「支えあうチーム」という認識が必要ということでした。

次に事業者の安全配慮義務について学びました。

企業責任とは「使用者は業務の遂行に伴う疲労や心理的負荷等が過度に蓄積して労働者の心身の健康を損なうことがないように注意する義務を負う」事であり、労働契約法第5条 労働者の安全への配慮

「使用者は労働契約に伴い、労働者がその生命、身体等の安全を確保しつつ労働することが出来るよう、必要な配慮をするものとする」の法令を遵守する必要がある事を学びました。

当然、メンタル面への配慮は必要ですが、最近では適用範囲が広がっておりセクハラ、パワハラ、いじめなどにも及んでいるそうです。

次にパワハラについての説明がありました。近年最も多い原因だそうです。

パワハラには上司と部下で受け止め方が違うケースが多く、

1、人間尊重を基盤とした風通しの良い職場風土づくり

基本:人権・人格を認めしっかりとコミュニケーション

2、役割認識の明確化と報・連・相の徹底

基本:仕事を通した信頼関係醸成努力

が必要であると説明を受けました。

ちょっとした一言で社員が大きく傷つき、ストレスを抱えてしまう事があるので、その言動、態度には十分注意が必要だということでした。

最後にストレスがゼロを目指すのではなく「ベストストレス(最も能率の上がる)」を考える事が重要で、ストレスは職場においてある程度は必要ということを教えてくださいました。

講演終了後は30分以上に及ぶ積極的な質問が飛び交い、また企業内研修の為の名刺交換なども行われました。

メンタルヘルスについて改めて考えさせられる学習会でした。
(社員共育委員長 阿部和人)



「2013北海道・東北ブロック支部長・地区会長交流会」に参加して

6月27日から28日かけて福島県会津若松市で、「2013北海道・東北ブロック支部長・地区会長交流会」が開かれました。交流会には七同友会と中同協より80名が参加、山形同友会からも6名が参加しました。

1日目は、埼玉同友会と福島同友会の事例報告とグループ討論、2日目は企業訪問で学び合いました。参加者より感想が届きましたので、ご紹介いたします。



(2日目 企業訪問 お菓子の蔵 太郎庵)

副代表理事 中村友祐



初めての参加のため全体的に観光色の強い交流会と感じたがこういうものなのかなあと感じました。

埼玉同友会の経営者をセグメント化した会員増強(2代目向け、女性向け)チラシはとても参考となりました。是非取り入れて行きたいと思います。グループ討論の2時間はとても長く90分が適当と感じた。

外部環境が変化し会員さんの会への要望・ニーズが変化してきている事実があり、係わる事務局の役割も進化していかなければならないのではと強く感じま

した。

同様に支部活動に於いても福島同友会で実施している「研究会活動」はまさに時代の変化に対応した活動だと思った。今年度の山形支部の研究会活動に期待したいところです。

全国的に自主的に活動している支部は活性化され増強も順調に行われているようです。同友会理念を深く理解し活かし地域の特性に合わせた活動が必要と感じました。魅力ある支部活動が大切であると同時に支える組織づくり、役員づくりが課題とも感じました。

支部長さんは是非参加していただきたいと思いました。そこには支部活動における沢山のヒントがあり悩みを解決してくれる同友の仲間がいます。元気も勇気ももらえます。

来年度は山形開催になっておりますので各支部長さんを中心に支部役員さんで同友の仲間を迎えましょう。

山形支部長 伊藤尚彦

山形支部の喫緊の課題が支部の活性化であり、そのひとつの方策として福島の研究会方式を取り入れたところだったので、福島県でこのような会が開催されたことはありがたかった。

各県の支部長クラス以上の方々のみという参加メンバーは、同友会への理解度という点で全国大会のそ

れに勝る印象を受けた。

基調講演も大変参考になるもので、具体案に満ち、すぐ支部で実行できそうなことばかりだった。

グループ討論ではグループ長をさせていただいたが、兵揃いで、実際グループ長の本来の仕事はほとんどできなかった、というよりする必要を感じなかつ

た。中には話の進行が交通整理されていないとご不満の方も居られたかも知れないが、私自身は大変有意義な話の中に一構成員として参加している意識があった。グループ長としては失格で、自らの力不足を感じたが、その気持ちを補った余りある討論内容であったと思っている。

懇親会も会津の方々の心のこもったおもてなしに、感服した。二次会以降もにわか討論会となり、快く同友会の風を感じた日であった。

翌日の会員企業訪問も素晴らしいものだった。いろいろな課題を克服されてきた話の中に、同友会同士の、そしてお客様との、揺るぎない信頼を感じた。これこそ我々が経営の中枢に据えるべきものだとの思いを新たにしました。

昼食での会員企業のお話も、参考になるヒントが満載であった。振り返ってみるとこの日だけで都合四社の会員企業の話を開けたことになる。

二日間とも充実した内容で、このような勉強の場を提供してくれた福島同友会及び会津地区の皆様にご改めて敬意を表したい。

ここで学んださまざまなことを、山形支部の中で如何に伝え、実践し、評価してゆくか、支部長の力量が問われるところで、正直かなり不安を覚えているが、とにかく山形支部で今年やろうとしていることが概ね正しい方向らしいことは確認できたので、自信を持って推進してゆこうと思う。



東京青全交へ参加しよう！

中小企業家同友会 in 2013年7月5日発行

2013 SEIZENK

第41回 中小企業家同友会全国協議会 青年経営者全国交流会 in 東京
in TOKYO

武志響創

われわれ
青年経営者で
世界に誇れる
日本の未来を
創ろう！

BUSHIKYOSO

武蔵の国に集え、志ある経営者！
響きあい共に創ろう世界に誇れる企業家精神を

参加申込み、お問い合わせは、山形同友会事務局までご連絡ください。

第41回青年経営者全国交流会が、9月12日から13日に東京で開催されます。

一日目の分科会では、山形同友会の(株)ティスコ運輸 菅原茂秋社長が、報告をします。山形同友会から参加費の補助もあります。

交通の便がよい東京での開催です。この機会に、ぜひ全国の仲間と学び合い、交流を深めましょう。

日時 2013年9月12日(木)13:00~
13日(金)12:15

開催会場 京王プラザホテル(東京都新宿区西新宿2-2-1)

参加費 20,000円(懇親会費含・宿泊費別途)

開催スケジュール

1日目	2日目
12:00 受付開始	9:00 全体会開会
13:00 分科会	9:30 記念講演
18:40 懇親会	11:00 セレモニー
20:25 懇親会終了	11:30 閉会
	11:35 特別企画ニュービジネスグランプリ
	12:15 終了

第3回理事会報告

◆日時:2013年7月10日(水)15:00~17:20 ◆会場:同友会事務局 ◆議長:中村副代表理事
◆出席:阿部(和)、阿部(秀)、安藤、伊藤、越前屋、及川、齋藤、佐藤(一)、佐藤(松)、島貴、庄司、白鳥、中村、松田、若木、川合相談役、事務局:伊藤、矢作、高橋 出席数:19名

中村副代表理事が議長を務め、安藤代表理事の「理事会は総会に次ぐ決議機関。理事の皆さんが責任を全うして中身ある理事会にしていきたい。また、山形県より「山形県中小・小規模企業支援戦略パンフレット」等の案内が届き、商工会議所をはじめ県工業会・県食品産業協議会・県建設業協会等に送られたもので、同友会がその中に入ったという事は、皆様のご尽力のお蔭です」との挨拶で始まりました。

■報告事項

- 1)第16回女性経営者全国交流会in大阪の報告 白鳥理事より
参加人数808名(女性505名、男性303名)山形からは白鳥・庄司・事務局矢作の3名参加。
広浜幹事長から「生活者の視点で築く未来」の問題提起があり、その後7つの分科会が催された。記念講演は福島同友会(雫北洋舎クリーニング高橋社長より「子供たちを安心して育てられる町に」のテーマで講演された。来年は熊本県で開催。
- 2)2014北海道・東北ブロック支部長・地区会長交流会in会津の報告 安藤代表理事より埼玉県同友会埼玉地区会長奥津氏と福島県同友会前福島地区会長高橋氏からの事例報告から、増強に関する考え方や取り組みのヒントが掴めた。企業訪問は棚太郎庵様とルービィ工業様様でした。
代表者会議では、来年の北海道・東北ブロック支部長・地区会長交流会の開催地に立候補した。(6/29~30)9月に正式に決定。
- 3)社員共育委員会:岩手同友会視察の報告 阿部理事より
岩手同友会の課題から、数年後の同友会大学の参加人数減を予測している。同友会大学のカリキュラムの中に、自社の課題の改善に繋がるようなものを盛り込んで運営するなどの工夫が必要だと感じた。
- 4)6月月次決算報告 伊藤事務局長が会費未納状況と合わせて報告。

■承認事項(入・退会承認) 5名入会、3名退会 7/10現在、398名

■討議事項

議題1:中小企業憲章推進月間のまとめ

齋藤理事より、中小企業憲章推進月間「条例学習会」(6/21)の総評と課題の報告があった。墨田区の高野部長の講演より、行政の危機感から始まった歴史ある地域振興条例であり、人口が山形市とほぼ同じということで、身近なテーマであると捉えられた。

課題は、山形の地域特性を考慮し開催時期を(7月等)を検討することになった。

議題2:2014年北海道・東北ブロック支部長・地区会長交流会の件

松田代表理事より、2014年度の北海道・東北ブロック支部長・地区会長交流会の山形開催の提案があり承認した。
開催時期は、2014年6月26日(木)~27日(金)、会場には、天童温泉を予定。

議題3:組織づくりの課題

- 1)各支部より、支部総会以降の活動状況の報告があった。
例会企画書・報告書を活用し、アンケート原本は1年間保管することになった。
- 2)会員増強の取り組み
中村副代表理事より会員増強の具体的な取り組みが提案され、下記の点が決定した。
①当面の目標として、期首会勢(409名)回復させる。
②入会対象者リストを共有し、月1回(理事会で)進捗状況確認する。
③増強デー(毎月9日)を設定し、8月9日からスタートする。
理事がリーダーシップを発揮し、支部幹事に納得してもらい取り組んでいく。

議題4:第11回経営研究集会について

実行委員長の庄司理事より、副実行委員長2名の推薦があり、島貴理事、阿部理事に決定した。実行委員は、各委員会、支部、部会から数名を選任する。
開催日時は、11月最終週の27日頃を予定。企画内容については、第1部記念講演、第2部分科会・グループ討論、第3部懇親会とする。
なお、7月中旬に第1回実行委員会を開催し、開催目的、スローガン、予算(案)等の企画案を作成し、8月理事会に提案することになった。

議題5:事務局賞与査定について

安藤代表理事より、事務局賞与査定について、常任理事会で討議した内容を説明し、予算どおり賞与を支給することが提案され承認された。

■その他

- 1)新e.d.o.y.u移行について伊藤事務局長が報告。
テスト運用中で(7/2~7/31)、9/2から本稼働する。「新e.d.o.y.u」の説明会を全会員対象に9月上旬開催予定。
- 2)2013組織強化・広報・情報化全国交流会(愛知)の参加依頼。
- 3)第41回青全交in東京(9/12~13) 参加目標:10名
・報告者:棚ティスコ運輸 菅原社長 座長:青柳副代表理事
・記録担当:高橋主任
・プレ報告:8月29日(木)18:30~(山形支部例会)
- 4)山形同友会携帯番号:①090-9420-8638 ②080-2833-5785
- 5)山形大学連携授業(7/10)の報告と8/10に開催される授業の参加依頼。
- 6)次回理事会

●日時:8月7日(水)16:00~18:00 ●会場:同友会事務局

■閉会挨拶 松田代表理事

全県行事として、「第11回経営研究集会」の取り組みが始まります。大事なことは集会の後に何を残すかです。実行委員会とすり合わせて成功に向けて取り組んでいきましょう。

新会員紹介

◎豊田 将氏

株式会社ステップアップコミュニケーションズ
取締役
業種 コミュニティ及び
マーケットの創出活性化支援
山形支部

◎笹林 陽子氏

南長門屋 取締役
業種 仏壇・仏具・墓石販売
山形支部

◎山岸 靖氏

株式会社ワイズクリエーション 代表取締役
業種 飲食業
山形支部

◎小関 幸一氏

株式会社サンノー企画印刷 専務取締役
業種 印刷・web・広告・販売促進・デザイン事業
置賜支部

◎関 恵里氏

株式会社進成工房 代表取締役
業種 食品加工製造業
さくらんぼ支部

支部・会員名・企業名・役職変更

株式会社高橋型精(山形支部)
NC加工課課長 高橋広真氏 ⇒ 取締役へ変更
株式会社そめこや本店(山形支部)
常務取締役 斉野国誉氏 ⇒ 代表取締役へ変更
株式会社山形タクシー(山形支部)
常務取締役 那須尚平氏 ⇒ 代表取締役社長へ変更
ツルカンシステム株式会社(庄内支部)
取締役会長 吉宮紀夫氏 ⇒ 相談役へ変更

From Editor

★7月は中同協の全国総会があり、7/11の伊丹空港からの飛行機は満席で、まるで同友会のチャーター便と化し、会員さんを乗せ南国宮崎へ。選んだ分科会は北海道同友会南空知支部の同友会づくりの渡辺幹事長の報告で、「小さな支部が変わるとき」のテーマに魅かれたからです。山形同友会にも小さい支部があり、どう変わっていくのに興味がありました。★2年前に初めて女性幹事長が誕生。自社の社員数以上の組織担当と高いハードルのスタートだったといえます。支部には出口の見えない閉塞感が漂い、何もしなければ面白いように辞めていきました。会員増強に対して、総論賛成、各論反対。「自然増でいい」「こぶさた会員を無理にさそわなくても」というように。★渡

辺幹事長は、「同友会の3つの目的こそ、支部活動の原点」と支部方針を話し続け、言葉で伝えました。増強には、特効薬はない。とにかく声をかけ、フォローし、顔と顔がよくわかる支部づくりで、仲間を増やそうという「意思」を持つ役員が増え、同友会を理解する人が増え、現在80名の会員数です。それでも道内では一番小さい支部。その支部が、今年11月に北海道の経営研究集会に挑戦します。支部を一気に変えるチャンス、強い仲間を増やしたいとの想いで臨みます。★同友会の活動は、自分のため、自社のため。「経営者は常に試されている。どういう考えをするか、ブレない自分のコアの部分をしっかり作り、鍛えるために同友会が必要」と語る渡辺氏の覚悟に震えました。(由)

8月支部例会案内

- ・どの支部の例会にも参加できます。
- ・月に一度は参加しましょう。



庄内支部

今すぐできる強い企業づくり Part2 ～利益が出せる戦略とは～

2013.8.21 (水) PM6:30～

場所：鶴岡市総合保健福祉センター「にこ♡ふる」
鶴岡市泉町5-30 ☎0235-25-2731

講師：肴奥山経営センター 代表取締役 奥山享氏 (税理士)
参加費：2,000円 (7月例会からご参加の方は、必要ありません)

今は大競争時代、自社の現状を分析し、強みを見つける事は必須条件と言えます。またその強みを社員さんと共有し、認識を一致しておりますか。さて、シリーズ2回目の8月例会は、SWOT分析シートから、自社が今どこを攻めて何を守るかを、「クロス分析」という手法で具体的な戦略まで落とし込んで行きます。奥山氏は、「中小企業の経営者は日々忙殺と資金繰りに追われている、その中で限られた経営資源の使い方がとても重要です。」と問題提起します。是非、この例会で、今すぐ取り組める戦略を見出して頂ければと思います。お知り合いの経営者の方、社員さんをお誘いあわせの上、ご参加ください。



さくらんぼ支部

社員共育委員会の取組と社風づくり ～社員との向き合い方～

2013.8.27 (火) PM6:30～

場所：さくらんぼタントクルセンター
東根市中央1-5-1 ☎0237-43-1155

報告者：田宮印刷(株) 常務取締役営業部門統轄 阿部和人氏

「なかなか社員が育たない」「いくら指導しても部下が成長してくれない」など、日々社員共育に悩む経営者や管理職も多いはず。昔は、売上など目標数字の100%達成が全てで、部下に対してそれが出来なければ認めないという考えだった阿部常務。ある時、周りにナイフを振り回しているようだとされたことをきっかけに考えが180度変わり、今では、社員の能力を引き出し、その能力を伸ばすために様々な角度からの指導をしています。

社員共育委員会委員長として、「労使見解」の具体的取組や人を生かす社風づくりをめざしている阿部常務の報告は、人材育成に悩んでいる方にとって必聴です。目からうろこが落ちること間違いなし!

ぜひ具体的な社員共育を学び合い、早速次の日から実践していきましょう!!



寒河江支部

いま、そこにある危機

2013.8.28日 (水) PM7:00～

場所：寒河江市技術交流プラザ
寒河江市中央工業団地153-1 ☎0237-86-1991

報告者：(株)曙印刷 代表取締役 川合勝芳氏

人口減少、少子高齢化、消費税増税、グローバル化、TPP、購買意欲低下、IT化……学び、自己満足、実践、不安、挑戦、リスク、方向性、知識、経験、戦略、自社の1年後 集客の仕方、見込み客、広告、反応率、時間軸、小さくてもガンガン売れる、ノウハウ、価格設定、トップの行動、マーケティング、イノベーション、特化、高い価値の提供、隣接異業種

やるの!?! やらないの!?! 学べ! 気づけ! 挑め!



山形支部

感謝と学びのチカラでビジョン高め「しあわせ」をつくる ～指針経営の実践で社員と共に「しあわせ」をつくる創業社長の挑戦～

2013.8.29 (木) PM6:15～

場所：山形ビッグウィング 中会議室
山形市平久保100 ☎023-635-3100

報告者：(株)ティスコ運輸 代表取締役 菅原茂秋氏

少年自衛官から運送業界に入り、2000年に創業。指針作成中の現状認識から「本当に地域に必要な会社になっているか?」というところに疑問を持ち、社員や地域の満足向上の必要性を痛感。まず顧客満足から実践します。業界常識にとらわれると大手との差別化が難しいために、独自の手法を展開し、本当の顧客満足を追求することで本業を拡大するとともに、隣接異業種への進出を進めました。「自社の雇用を守り、地域を守る企業に発展していく」というビジョンを社員と共に目指す取り組みを報告します。9月に開かれる第41回青年経営者全国交流会での報告を先取り!ぜひ、ご参加ください。



置賜支部

自社を取り巻く環境をつかもう!

2013.8.22 (木) PM6:30～

場所：伝国の社
米沢市丸の内1-2-1 ☎0238-26-8000

大きな時代の転換期を迎えている今、環境の変化に対応できる企業づくりが必要です。置賜支部8月例会では、自社を取り巻く外部環境(機会・脅威)と内部要因(強み・弱み)を客観的に把握するための第一歩として、事例報告をもとにSWOT分析を行います。SWOT分析は、検討の過程で「商品・顧客」の伸ばす分野と対策、削減縮小する事項が整理でき、自社で実現可能な現実的な方針や具体策が見えてきます。

ぜひ、先行きが見えにくい時代だからこそ、この機会にSWOT分析をやってみましょう。お誘いあわせの上、ご参加ください。

同友やまがた8月号(2013年8月1日発行/通巻245号)



“知り合い、学び合い、援け合い”
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583
URL:<http://yamagata.doyu.jp/> E-mail:info@yamagata-doyu.jp